

横田 PFAS 流出調査

浄化装置確認 汚染源 特定遠く

米軍横田基地（東京都福生市など）で昨年8月、発がん性が指摘される有機フッ素化合物（PFAS）を含む汚染水が基地外に流出した疑いがある問題で、国や東京都などは14日、横田基地に立ち入り調査した。日米地位協定の環境補足協定に基づく初めての立ち入りだが、現在も残る汚染水を浄化する装置の性能を調べるのみで、地元住民らが求める周辺地下水の汚染源の実態解明には程遠い。（松島京太）



立ち入り調査に臨む日本側と米軍の関係者ら
14日、東京、米軍横田基地で（大石佑撮影）

日米協定下 初の立ち入り



防衛省などによると、午後2時ごろ、国と都、基地周辺の6市町の職員が基地内に入った。基地北東の消火訓練エリアにある貯水池の汚染水を、米軍のPFAS浄化装置に通過させ、浄化された水を採取した。装置が機能しているのか確認するのが狙い。

米側の説明では、貯水池などにたまる汚染水は約150万リットルあり、PFAS濃度は1リットルあたり約1240ナノグラム。米軍は、装置で浄化

PFAS汚染水の漏出事故を巡る動き

2024年8月	豪雨の影響で米軍横田基地の貯水池から約4万7千リットルの汚染水が漏出した
10月	米側が「基地外に流出した可能性が高い」と日本側に伝達
12月	日本側が横田基地内に立ち入り、現地で説明を受ける
25年5月14日	日本側が環境補足協定に基づく初めての立ち入り調査
梅雨入り前?	米側は汚染水を浄化後、雨水排水路に放流する方針

市民団体「地下水の調査必要」

「これで汚染対策は完了した」というアライバイ作りにならないようにしてほしい。住民団体「PFAS汚染を明らかにする立川市民の会」の佐々木憲幸さんは、国や都などにこそつぎを刺した。

横田基地で環境補足協定に基づく初の立ち入り調査が実現したことは「PFAS汚染に対する世論の関心の高まりが後押しした」と評価するが、「今後は周辺の土壌や地下水の汚染調査が必要だ」と強調

した水の濃度が国の暫定目標値である1リットルあたり50ナノグラム未満であることを確認し、浄化した水を雨水排水

路を通じ放流。水は、基地南西部から基地外に流れ出るとした。



が出るまで2週間ほどかかるという。環境省は目標値未満であれば排出を許容するとの考えを示している。

一方、周辺地下水の調査については、防衛省の担当者は「予定はない」と説明。汚染水流出が周辺地下水にどの程度影響を与えたかなど汚染源の特定につながるような調査はしない考えを示した。

東京・多摩地域では7市40カ所の水道水源の地下水がPFASに汚染され取水を停止。汚染源は、PFASを含む泡消火剤を使用してきた米軍横田基地が疑われている。そのため、周辺住民から汚染源の特定や浄化を求める声が出ていた。

漏出事故は昨年8月に発生。豪雨の影響で貯水池のPFAS汚染水が漏出した。10月には米軍が日本側に汚染水が基地外に流出した可能性が高いと伝達。国や都、周辺自治体が12月に、基地に入り現場を視察していた。

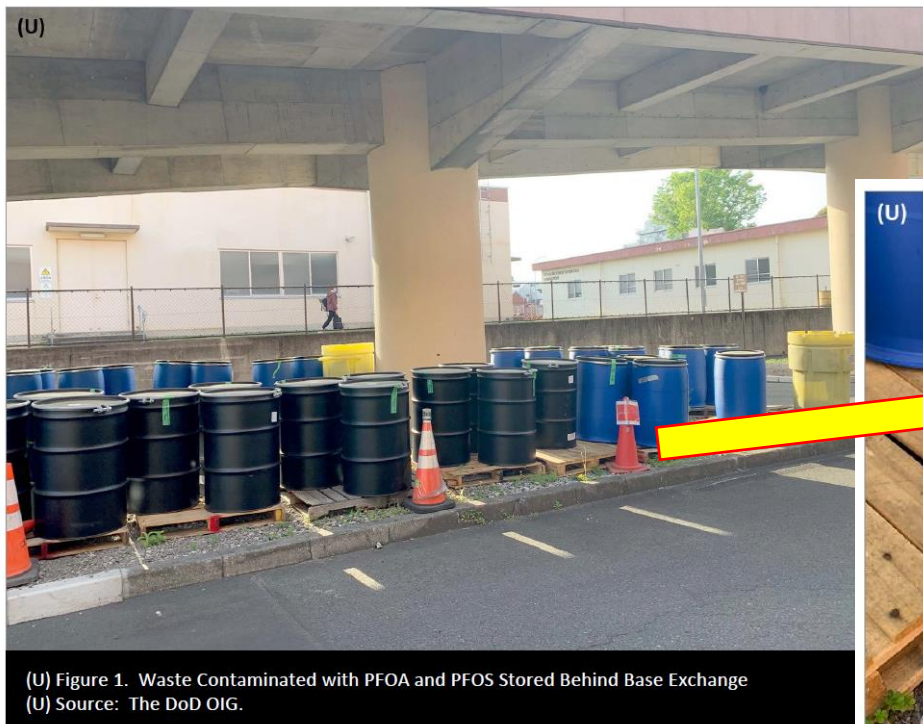
調べる。だが、国は地下水の汚染源特定には消極的だ。防衛

省の担当者は「汚染と米軍との因果関係で、確実なこととは言えない」と説明。省幹部によると、米軍に汚染源の特定に向けた協力さえ求めているない。

地下水汚染との関連について、横田基地広報部は「これまでの本紙の取材に「PFASは多くの製品に含まれていることを考慮する必要がある。PFASの本当の汚染源を判別し、調査することは困難だ」などと責任を回避する。

佐々木さんは地下水汚染が長年続いていた事態に加え、現在も基地周辺の農業用水に含まれている可能性を不安視する。「住民の健康を守るために抜本的な解決になるような調査をするべきだ」

(U) On April 12, 2023, we observed the hazardous waste generated from those spills stored near a loading dock behind the base exchange. We did not identify any leaks from the storage containers. Although 374th Airlift Wing personnel put a sign (in English and Japanese) warning people to “Keep Out,” the area where the hazardous waste was stored was not secure and was easily accessible to the general base population. Figure 1 shows waste contaminated with PFOA and PFOS stored in a non-controlled location behind the base exchange at Yokota Air Base. Figure 2 shows the “Keep Out” (in English and Japanese) warning sign that 374th Airlift Wing personnel posted in front of the unsecured waste contaminated with PFOA and PFOS.



【日本語訳】

(U) われわれは、同年 4 月 12 日、基地の両替所の裏の荷物搬入口近くで保管されていた漏出物から発生した危険廃棄物を観察した。保管コンテナからの漏出は確認されなかった。同部隊の人員は（英語と日本語で）「キープ・アウト」〔立ち入るな〕という警告を張り出したが、危険廃棄物が保管された区域は安全が確保されておらず、基地にいる人々は容易に近づくことができた。写真 1. は、横田基地の両替所の裏の管理されていない場所に PFOA 及び PFOS に汚染された廃棄物が保管されている様子を写したもの。写真 2. は、第 374 空輸航空団の人員が安全が確保されていない汚染廃棄物の前に「キープ・アウト（立ち入るな）」と〔英語と日本語で〕張り出した警告表示を写したものだ。